

2025年6月22日 第4主日礼拝 黙示録9章13-21節 説教「第六のラッパ」

今日は黙示録9:13-21から「第六のラッパ」と題して2つの点でみことばを取り次ぎます。

#### 1. 四人の御使いによるわざわい 13-19

先週は第5のラッパによるいなごの災いを見ました。いなごはサソリのような力を持ち、額に神の印を持たない人に5か月間害を加えました。いなごの王はサタンです。5か月間のいなごによる災いが終わると、次に第6の御使いがラッパを吹きました。今日はその個所を見ていきます。週報の図を見ると第6のラッパは、第7のラッパによって現れるキリストの再臨と最後の審判前の6番目の警告的さばきであることがわかります。

【13 第六の御使いがラッパを吹いた。すると、神の御前にある金の祭壇の四本の角から、一つの声が聞こえた。】第6の御使いがラッパを吹きました。すると神の御前にある金の祭壇の4本の角から、一つの声が聞こえました。地上の祭壇には4本の角があり、その角に犠牲のいけにえの血が塗られ、罪の贖いがなされました。天にある金の祭壇の4本の角は、イエスを信じる者の罪が完全に贖われていることを象徴的に表しています。また、一つの声とは神の声です。5:9を見ると、第5の封印が解かれた時に、天の祭壇の下には殉教者のたましいがいて、「いつまで神のさばきを行わず、復讐を行わないのですか」と叫んでいました。また8:3を見ると、第7の封印が解かれた時、御使いが香とすべての聖徒たちの祈りを神にささげました。ですから、神は聖徒たちの祈りに応えて、正しい審きを行われるのです。

【14 その声は、ラッパを持っている第六の御使いに言った。「大河ユーフラテスのほとりにつながれている、四人の御使いを解き放て。」】神の声はラッパを持っている第6の御使いに、「大河ユーフラテスのほとりにつながれている、四人の御使いを解き放て」と言いました。ユーフラテス川は神がアブラハムの子孫に与えると約束された東の境界線です。イスラエルを攻撃するアッシリアやバビロンはユーフラテス川を越えてやってきました。ここでは神はご自身の敵をさばく御使いがいる場所として象徴的に用いられています。神の敵をさばく4人の御使いは、神の時が来るまで待っています。そして、ついにその場所から解き放たれる日が来たのです。

【15 すると、その時、その日、その月、その年のために用意されていた、四人の御使いが解き放たれた。人間の三分の一を殺すためであった。】救い主イエスが誕生したのは、神の時が満ちた時でした。神の計画の時に救い主がこの世に遣わされ、イエスの十字架の死と復活による救いが成し遂げられました。同じように、神の審きの時も神の主権の中で定められています。第6のラッパによって、4人の御使いが神のさばきを実行する時が満ちたことが表されました。4人の御使いは人間の三分の一を殺すために解き放たれます。6:7で第4の封印が解かれた時、青ざめた馬が現れ、四分の一の人が殺されました。この時は人間による戦いや飢饉、死病、獣によって人々が死にました。けれども、第6のラッパによる審きは、神が4人の御使いによって三分の一の人を殺す直接的な審きです。

【16 騎兵の数は二億で、私はその数を耳にした。】4人の御使いは、二億の騎兵をもって審きを行います。2億の騎兵は、人間ではなく天の軍勢と考えられます。

【17 私が幻の中で見た馬と、それに乗っている者たちの様子はこうであった。彼らは、燃えるような赤と紫と硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄が出ていた。】2億の騎兵はそれぞれ馬に乗っていました。馬と騎兵は燃えるような赤と紫と硫黄の色の胸当てを着けていました。また馬の頭は獅子の頭のように、口から火と煙と硫黄が出ていました。

【18 これら三つの災害、すなわち、彼らの口から出る火と煙と硫黄によって、人間の三分の一が殺された。】馬の口から出る火と煙と硫黄という三つの災害によって、人間の三分の一が殺されました。火と煙と硫黄は神のさばきの象徴です。ソドムとゴモラは火と硫黄によって滅ぼされ、滅びた町から煙が上がりました。同様に、終末には火と煙と硫黄に象徴される神のさばきが行われます。

【19 馬の力は口と尾にあって、その尾は蛇に似て頭を持ち、その頭で害を加えるのである。】この馬は口から出る火と煙と硫黄だけでなく、尾にも力があります。その尾は蛇に似て頭を持ち、その頭で害を加えます。第5のラッパのいなごと第6のラッパの馬と騎兵は、神のさばきを行う器としての共通点があります。いなごは馬に似ていて、煙の中から登場しますが、馬は口から煙を出します。いなごの歯は獅子の歯のようであり、馬の頭は獅子の頭のように、いなごにはサソリのような尾を持ち、馬の尾は蛇に似て頭を持ち、害を加えます。両者は最後の審判の前の警告的さばきを行って、人々に悔い改めを迫ります。

8:13で中天を飛ぶ鷲が大声で「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る。地に住む者たちに。三人の御使いが吹こう

としている残りのラッパの音によって」と言いました。「地に住む者たち」とは、神の民以外の人たちのことです。ですからこの後のラッパによる3つの災い、すなわち第5のいなごの災い、第6の4人の御使いによる騎兵と馬の災い、そして第7のラッパから始まる鉢の災いと最後の審判は、神の民以外の人に起こり、神の民はそれらの災いから守られます。確かに主イエスを信じる者も終末における患難を経験します。クリスチャンには信仰ゆえの迫害もあります。けれども、神はご自分の民を覚えてくださり、神の特別な守りが与えられるのです。このことは私たちにとって大きな励ましであり、慰めです。そしてそれゆえ、この患難時代において生かされる神の民には最後まで、主の救いの福音を宣べ伝える使命が与えられていることを覚えましょう。

## 2. 悔い改めへの招き 20-21

ラッパの災いでは、第6のラッパまでは警告的さばきです。警告的さばきは、第7のラッパによって始まる最終的さばきにあうことがないようにと人々に警告し、その前に悔い改めてイエスを信じるようにと招いているのです。では第6のラッパによる災いを経験し、生き残った人たちはどうしたのでしょうか。20-21節で見てください。

【20 これらの災害によって殺されなかった、人間の残りの者たちは、悔い改めて自分たちの手で造った物から離れるとすることをせず、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた偶像、すなわち見ることも聞くことも歩くこともできないものを、拝み続けた。】三分の一の人が4人の御使いによる騎兵と馬の災いによって殺されましたが、なお三分の二は生き残りました。神はその人たちが悔い改めて救い主イエスを信じ、ご自分のもとに立ち返ることを願われました。ところが、残念ながら彼らは悔い改めることなく、依然として偶像礼拝を行っていたのです。偶像とは、まことの神以外のものであり、人間を造った神ではなく、人間が造った神です。世界中に金、銀、銅、石、木で作られた偶像があり、日本にもたくさんあります。パウロはアテネに行ったとき、町が偶像で満ちていたのを見て、心に憤りを覚えました。

パウロはIコリント8章で「世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない」と言いました。偶像の神は実際には存在しません。存在しない神を信じて拝むことはむなしいことです。一方でパウロは、Iコリント10章では、「偶像へのささげ物は、神にではなくて悪霊にささげられている」とも言いました。偶像礼拝は悪霊を礼拝することにつながっているのです。悪魔と悪霊は、私たちが真の神を信じることがないように、偶像を礼拝させます。ですから、偶像礼拝の背後に悪魔と悪霊の存在があるのです。聖書は、偶像礼拝者は神の国には入れないと教えています。

【21 また彼らは、自分たちが行っている殺人、魔術、淫らな行いや盗みを悔い改めなかった。】人が真の神から離れ、偶像礼拝をすると、霊的に墮落するだけでなく、倫理的にも墮落します。魔術は、占い、まじない、呪い、霊媒、口寄せ、死人への伺いなどを含み、これらは偶像礼拝として旧約聖書で禁止されています。今日も毎日のように殺人事件がニュースになります。世界では戦争や紛争で多くの人が亡くなっています。人々は様々な運勢占いに興味を持ち、行っています。社会における性的な乱れは、ますます深刻になっています。様々な詐欺グループはますます巧妙になり、世界中の人からお金を盗んでいます。残念ながら、終末が近づけば近づくほど、社会の悪は増えていくことでしょう。これも神の審きの一つです。神の警告的な審きを受けても、人々は心をさらに頑なにし、悔い改めないからです。

エジプトに十の災いが一つ一つ下った時、ファラオは心を頑なにし、イスラエル人を荒野に行かせませんでした。そして十番目のすべての長子が死ぬ災いが下った時、ファラオはついにイスラエル人を行かせました。しかし、その後再び心を頑なにして、イスラエル人を追いかけて、エジプト軍は紅海で滅びました。またイスラエル人も荒野でしばしば心を頑なにし、不信仰に陥り、その結果20歳以上の人は約束の地に入れませんでした。またソロモン王の死後、国は南北に分裂し、北イスラエルは偶像礼拝を悔い改めることをせず、アッシリアに滅ぼされました。南ユダは良い王と悪い王が交互に出ましたが、やはり偶像礼拝を悔い改めることをせず、バビロンによって滅ぼされました。

このように人は心を頑なにすればするほど、ますます頑なにになり、悔い改めることができなくなるのです。ですから聖書は言います。「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」最後の審判前の警告的さばきは、ますます厳しくなります。それらの災いは罪に対する神のさばきであるとともに、罪を悔い改めるようにとの神の招きの声でもあるのです。神は「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない」と今日も語っておられます。神はいつでも、御声を聞いて悔い改め、主イエスを信じる者を救ってくださいます。その神の招きの声を伝えるのはクリスチャンである私たちです。そしてその務めのために、私たちには今日もそして患難時代も、神の特別な守りが与えられているのです。神の御声を人々に伝えるために、今週も主の証し人としてそれぞれの場所に遣わされて行きましょう。